

2021年度



さくらんぼ園だより 5・6月号

社会福祉法人 舞鶴市社会福祉協議会

舞鶴こども発達支援施設「さくらんぼ園」(Tel64-5798・FAX62-9171)

「子どもたちと楽しい時間」を過ごしましょう

さくらんぼ園の桜もすっかり葉桜となり、少し赤くなったさくらんぼの実を山鳥たちが待ちきれずに食べにやってきました。5月のさわやかな風に、あたたかい日差し。外遊びやお散歩が楽しい季節になりました。3度目の緊急事態宣言が発令され延長もされました。園内の換気や消毒の他、子どもたちと職員の健康、安全を第一に取り組んでまいりたいと思います。



新型コロナウイルス感染症の流行で大きく変わってしまった日常。子どもたちの心はどのような影響を受けているのでしょうか。「国立成育医療研究センター」が調査したところ、全体では72%の子どもに何らかのストレス反応や症状がみられているということです。

子どもは、自分の気持ちを客観的にみることが難しく、イライラや不安に気づいたり、おさめたりする力も不十分です。親として、『楽しみだったのに悔しいね』『お友達と一緒に遠足に行けなくてさみしいね』など、子どもが感じているかもしれないことを、場合によっては大人が代弁してあげると安心すると思います。

また、体調不良を訴えたり、登園をしぶったりする場合は、無理に行かせようとせず『お腹が痛いね、あたためようか』『気持ちが悪いとつらいよね』など。体調を気遣ったり、いつもよりゆっくりとした優しい口調で『何か心配なこと、気になること、嫌なこととかあるのかな？お話しできそう？』などと話しかけるのもいいと思います。

気をつけてほしいのは、子どもが同じことをしても、ある日は大声で叱ったのに、次の日は叱らずに好き勝手にさせているような一貫性のない関わりです。これが繰り返されると子どもにとっては、安心安全の場を失うことにつながります。私も小さい孫が2人いる祖父なのでよくわかります。人間ですから、思わずおおきな声を出してしまうことはあります。

そんなときは、『さっきはごめんね。お母さんもイライラしちゃってね』と素直に謝ることで。そして『ちょっと疲れているから、今日は早めに一緒に寝ようね』など、親自身が自分のストレスに気づいて、自分でケアしようとする姿を子どもたちが見ていくことも、子どもにとって大事な経験になると思います。

このコロナ禍で何かお悩みのことや不安なことがありましたらどうぞ気軽に園長や職員にご相談ください。お待ちしております。

園長 櫻井 秀之
職員一同